

有識者インタビュー

職場内コミュニケーションにおいて明日から始められる心掛けなどを有識者にお聞きしました。

お互いを理解するための コミュニケーションを 意図的に増やしましょう

(株)クオレ・シー・キューブ
取締役
古谷 紀子さん



【プロフィール】

(株)リクルート、労働相談員を経て、官公庁や大学、大手上場企業からベンチャー企業までを対象に、働きやすく、やる気を引き出す職場を作るワークショップや研修の企画、講師を担当している。カウンセラーとして、これまで相談にのった人数は1万人。

—グローバル企業の職場内のコミュニケーションで、特に気をつけなければならない点がありますか。

「会社で働く」という点における“価値観の違い”や“常識”が人によって異なることをよく理解して、お互いの意図を確認し合うことが重要でしょう。日本では「これくらい伝えれば分かってくれるはず」と全てを言わなくても相手が理解してくれることを期待していたり、自分の常識と相手の常識が同じだと錯覚していたり、そのために生じている誤解や問題が多く見受けられます。

—社員全員がいきいきと働く職場になるために、個人が明日からでも始められることはありますか。

全社員がいきいきと働く職場は、組織としての理念や体制の構築だけでなされるものではなく、そこで働く一人一人が作り出すものです。また、コミュニケーション力は“場数を踏む”ことで向上します。仕事における“正解”は一つではないことを念頭に、お互いに「自分と違う価値観や視点を楽しんで生かす」という発想を持って、より良い成果に向けて協力するための関わりを“意図的”に増やしてみてもいいでしょうか。